

①^{だいしどう}大師堂

天津の^{ひきつち}引土に所在。弘法大師像を祀った堂で、大師像の胎内には多くの写経が納められている。写経は後跋（あとがき）に「宥雅拜書」と記された^{そんしょうだらに}尊勝陀羅尼が1点、後跋に「享保十乙巳歳 慈休庵鏤慶」と記された宝篋印陀羅尼が複数点、「大佛頂一卷 宝篋院陀羅尼百篇 大随求陀羅尼一卷」と並書した享保20年（1835）の断片1枚が確認できた。

弘法大師像の台座裏には、「房州千光山清澄寺 為法印頼勢二世成就 寛永四年丁卯二月廿一日」と銘があり、像内背面にも同文の銘があることから、新義真言宗系の堂で、清澄寺中興の頼勢の関与が推察される。

②浅間神社

天津の引土に所在。祭神は^{このはなさくやひめ}木花咲耶姫命。神社の裏山は太平洋に面した独立峰で、境内から頂上へ続く道があり、頂上の洞窟は、石橋山の戦いに敗れた源頼朝を救った梶原景時が隠れたという伝説がある。この頂上からの眺めは素晴らしく、洞窟の西側に立つと、晴れた日には富士山も見ることができる。

明治32年（1899）の銘のある石碑があり、当時の天津に浅間信仰の講中があったことなどがわかる。例祭日は7月第1土曜日で、出店も出てにぎやかである。

③弁天堂

天津の^{ふにゅう}布入に所在。弁財天像のほか七福神の恵比寿像と大黒天像が祀られている。釈迦、観音、阿弥陀、不動明王の各像がある。

堂の前に「亀龍神」の碑があり、慶応2年（1868）5月15日に漁船が拾った亀を祀ったことが刻まれており、この地ではカメを龍神の神使とする信仰があったことが推測される。現在も、近隣の漁師は豊漁を願ってお参りをしている。

海福寺の支配下にあったと伝えられ、寛政元年（1789）の「新義真言宗出家人別御改帳」（勝福寺文書）には、この堂に大和国出身の観成という34才の道心がいたことが記されていることから、新義真言宗系の堂であるといえる。

④ロシア人来航の地

鎖国下にあった江戸時代の元文4年（1739）5月、天津村2里（8km）の沖合いにロシアの探検隊が来航し、乗組員数名がボートでこの地に上陸した。漁民たちから水や大根などをもらい、ロシア側は貨幣と数珠玉を渡したという。この出来事は、村人の口述をまとめた文書とロシア側の文書からも詳しく知ることができる。

我が国（北海道を除く）で初めてのロシア人上陸であるため、全国的な視点からも外交史上での大きな出来事であると共に、貴重な史跡である。

⑤葛ヶ崎城跡

この城跡は角田丹後守の居城であったが、天正8年（1589）に起こった天正の内乱（正木憲時の乱）において里見氏によって攻略された。軍記物語などには、当時、城を守っていた丹後守の弟の角田丹波の話が伝えられており、本城跡は別名『浜荻要害』と記されているが、遺構がわずかに認められた程度で、現在は道も廃れて登るのは危険であり跡地には何も残っていない。

⑥薬師堂

浜荻に所在。地元では元薬師にあった寺を移したという伝承がある。

堂内には本尊の薬師如来のほか、観音と^{せいし}勢至の両菩薩を脇侍とした三尊形式の阿弥陀如来像、多聞天像、毘沙門天像、^{にょいりん}如意輪観音像とともに、弘法大師像が安置されていることから、真言宗系の堂であったといえる。

⑦貴船神社

祭神は^{たかおかみのかみ}高竈神、^{ほんだわけ}誉田別命、猿田彦命の三柱の神である。貴船神社は、通称「うちかんさま」と呼ばれていた。北浦忠吾・忠内が発願して、村中の協力で創建した神社と伝えられている。例祭日は8月第1土曜。宮出しの際、神輿を先導する天狗11人衆（猿田彦命）や獅子頭などの巡遊行列が珍しい。

⑧多聞寺（日蓮宗）

本尊は十界本尊であり、本堂には日蓮聖人坐像、^{もんじゆ}文殊・^{ふげんぼさつ}普賢菩薩坐像、四天王立像、^{おでむかえ}御出迎毘沙門天王立像、三十番神坐像などが安置されている。

境内には日蓮聖人が、文永元年（1264）小松原法難の際、地頭の東条景信から襲撃を受けた時に聖人を助けた北浦忠吾・忠内の墓がある。

また、墓地の歴代僧侶の墓には、元和4年（1618）銘の宝篋印塔があり、東条藩主西郷^{いえかず}家員夫人のものである。

⑨^{きす}創洗い井戸

日蓮聖人は文永元年（1264）、小松原法難の際、地頭の東条景信から襲撃を受け、眉間に3寸余りの刀傷を負い、ここで傷の養生をしたといわれる。傍らにある石は、日蓮聖人が腰かけたとの伝説がある。

鴨川市教育委員会 生涯学習課 文化振興室 郷土資料館 鴨川市横渚1406-1 電話 04-7093-3800 平成22年3月
--

作図 辰野節子